

# 令和2年度 事業報告

## 概 況

令和2年度は、皇位継承に伴う行事の最後の式典として、「立皇嗣の礼」が令和2年11月に執り行われ、秋篠宮文仁親王殿下が皇位継承順位第1位の皇嗣とされたことを国内外に示されました。

また、わが国では菅義偉氏が第99代内閣総理大臣に、米国ではジョー・バイデン氏が大統領に就任し新たな日米関係が構築されつつあります。

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大はわが国においても、7都府県を対象にした緊急事態宣言の発令や、東京オリンピックの延期など、日本経済に大きな影響を与えリーマンショック時に匹敵する落込みとされています。

そのような中、世界各地で新型コロナウイルスに対するワクチンの開発が急ピッチに進められ、一部の国で接種が始まったことは一筋の光明となりました。

当センターの事業においても、新型コロナウイルス感染症の影響による就業の中断や縮小、廃止などがあったものの「新しい生活様式」を踏まえた感染防止対策を講じつつ、会員拡大や就業機会の確保、創出に取り組んでまいりました。

また、会員の携帯端末の利用状況や就業意識についてのアンケート調査では様々なご意見を頂くことができました。

さらに、「第3次中期基本計画」（平成28年度より令和2年度までの5か年）の最終年度として、当センターの事業を評価・検証し、更なる飛躍を目指し「第4次中期基本計画策定委員会」を立ち上げました。

また、国の施策の実現や地方自治体及び地域社会の期待に応えるべく、「第2次会員100万人達成計画」のもと、新規会員の確保のため数回にわたりセンター広報誌へ「ポイント制度」や「報奨制度」について掲載し会員の意識の向上に努めました。その他、ハローワーク徳山での入会案内やボランティア清掃時のチラシ配布、バス運行中のアナウンス広告の継続等に取り組みました。

「人生100年時代」を迎え、誰もが生涯現役で活躍する社会の実現のため、地域に密着した就業機会を提供できるよう法令等を遵守し、市当局をはじめ関係機関、事業所及び市民の皆様のご理解とご協力を得ながら、事業運営をおこないました。

以下、令和2年度の主な事業の実施状況についてご報告申し上げます。

## 事業実施状況

### 1. 会員数の増強及び事業実績

令和3年3月末の会員数は1,003人で、会員構成は男性582人、女性421人となって前年度比49人の減少となりました。

契約金額について、請負・委任の受託契約金額は400,648千円で、前年度比25,481千円の減額で6.0%の減、配分金支払額は323,987千円で、前年度比19,867千円の減額で5.8%の減となっております。

また、就業延人員は81,768人で、前年度比3,944人の減少、就業実人員は745人で、就業率は74.3%で0.3%の増、受注件数は5,095件で、前年度比664件の減少、11.5%の減となりました。

次に、派遣事業の契約金額は81,184千円で、前年度比4,997千円の減額で前年度比5.8%の減、就業延人員は14,163人で前年度比1,315人8.5%の減となりました。

したがって、請負・委任、派遣事業を併せた契約金額は481,832千円となり、前年度比30,478千円の減で、前年度比5.9%の減となりました。

### 2. 普及啓発活動と就業機会の開拓

シルバー事業活動を広く地域社会に周知するため、会報「いきがい」を年4回発行し地域の市民センターに配置しました。

また、見てもらえるホームページを心がけ、充実した情報の提供に努めました。新型コロナウイルス感染症対策のため、各種イベント等へ参加は厳しいものの、各種行事開催時の報道機関への情報提供及び作業時やボランティア活動時に幟旗の掲揚を行い普及啓発活動に努めました。

職業安定所と連携した入会案内、手芸部による「いきいき百歳体操」や、会員入会募集・派遣事業のリーフレットを活用し、事業所等へシルバー事業の周知と就業機会の拡大を図りました。

### 3. 会員の資質の向上（研修会・講習会の開催）

会員・市民を対象とした「女性の集い・いきいきレディースサロン」をソーシャルディスタンスをとりながら開催しました。

また、派遣会員を対象としたスキルアップセミナーを開催しました。

#### 4. 組織機能の整備充実

センター事業の基盤となる地域班組織の機能強化として地域班長・役員合同会議、各地区での懇談会及び剪定・草刈等職群班の組織活性化対策として、職群班会議を開催し組織機能の整備充実に努めました。

#### 5. 安全就業への取り組み

シルバー人材センター事業にとって、安全就業対策は最優先課題です。

また、当センターでは全ての会員・役員・職員が、日常生活を含むあらゆる面において、安全意識について考え実践することを目的に、毎月1日を「安全の日」と定め幟旗を掲揚することにより、安全意識の周知に努めました。

令和2年度の事故発生件数は、傷害事故5件（前年度13件）、損害事故については9件（前年度5件）、その他事故3件（前年度1件）昨年と比較すると発生件数は2件の減少となりました。

#### 6. 適正就業への取り組み

ワークシェアリングによる就業機会の公平化のため、適正就業委員会では会員の5年以上の継続就業状態の調査審議を実施しました。また、請負での就業になじまない就業形態の是正のため、労働者派遣事業及び有料職業紹介事業に積極的に取り組みました。

#### 7. 独自事業

会員の長年培ってきた知識・技能を活かし、就業機会の確保と会員と地域との交流を図るため、手芸部が道の駅ソレーネ周南での作品販売、新型コロナウイルス対策として「布マスク」の作成に取り組みました。

#### 8. 第3次中期基本計画の評価・検証

第3次中期基本計画（計画期間：平成28年度から令和2年度まで）の進捗状況の評価、検証のため、年度末の3月に第3次中期基本計画推進委員会を開催しました。

更に、センター事業運営の推進を図るため、第4次中期基本計画策定委員

会を立ち上げました。

## 9. 地域社会への貢献（ボランティア活動の実践）

シルバー人材センター事業は地域社会に密着した事業をおこなっています。新型コロナウイルス感染予防を徹底しながら、ボランティア活動を地域ごとに公共施設・福祉施設やその周辺の清掃作業を実施しました。

また、剪定班では27年間実施していた養護老人ホーム「きさんの里」の移転にともない場所を地域の小学校に変えてボランティア剪定作業を実施しました。

## 10. 労働者派遣事業の実施

本年4月1日から、改正「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の保護等に関する法律」が施行され、派遣先に比較対象労働者の待遇情報の提供をお願いしました。

また、請負事業としてなじまない業務は、受託事業から労働者派遣事業へと、就業ガイドラインに基づき切り替えを推進しました。

## 11. 職業紹介事業

適正就業に資するため、受託事業から直接雇用への切り替えに際し、県連合会の下、県連合会の実施事務所として、有料職業紹介事業に取り組みました。